

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	4070701331
法人名	医療法人 香林会
事業所名	グループホーム 螢の郷
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区香月西3丁目10-17 (電話) 093-618-8893
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年5月7日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 14人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.6人/1ユニット	

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(456,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成 19年 4月 22日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院 うえの歯科 八幡厚生病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には香月中央公園があり一部の居室からは広い窓越しに、子供達の遊ぶ姿や大人の行き交う姿が眺められ人の動きを感じる事が出来る。また周囲には緑が多く、心が安らぐ。ホームの中は自然な採光が十分に取り入れられながらも落ち着いた色使いの内装が、ゆったりした気持ちにさせてくれる。また、職員の態度は穏やかで、全体的に個々の利用者に合わせて時が流れている。管理者は常に利用者の立場にたち、自分自身を厳しく見つけている。職員研修に対しても前向きに取り組まれている。男性職員が6名と多いのも特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では地域への参加に課題があったので、公民館のバザーへの出展や、地域の夏祭りに利用者と共に積極的に参加し地元の人々と交流する事に努めている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回、地域への参加に課題があったので公民館へのバザーへの出展や、地域の夏祭りに利用者と共に積極的に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。昨年の評価での課題は、積極的に改善に努めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前回の運営会議で検討事項や懸案事項についてはその経路を報告しあい、一つひとつ積み上げて行くようにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族の訪問時や毎月の請求書送付時に、暮らしぶりなどを同封する文書で報告している。家族の訪問時には積極的に話しかけ、意見や不満等を聞くように努力している。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き、改善に役立てている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 公民館のバザーへの出展や地域の夏祭りに利用者と共に積極的に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム設立前から、母体の医療法人では「往診を重視し、地域に医師や看護師は出て行かなければならない。地域に貢献出来るように」という理念のもと、医療サービスが行われている。そして、人生の最後の部分を地域とつながりを持ちながら自分らしく過ごしていただくようにとの思いで「地域に密着したグループホームを目指す」という理念のもとグループホームが設立された。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、実践に取り組んでいる。例えば地域的美容室の利用や、地域での買物、地域の農家とお米の契約など、小さな事から地域の関わりを作っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館のバザーへの出展、地域の夏祭りに利用者と共に積極的に参加するなど、地元の人々と交流する事に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	公民館のバザーへの出展や、地域の夏祭りに利用者と共に積極的に参加し、地元の人々と交流する事に努めている。 昨年の課題であった事は、積極的に改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営会議での検討事項や懸案事項については、その経緯を報告し、話し合っ一つひとつ積み上げて行くようにしている。また外部評価の結果から明らかになった課題については会議で報告し、意見を貰うようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を行うようになり、包括支援センターとの関わりが持てるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護事業の研修には参加しているが、職員は理解出来ていない。その為必要ときに支援できる体制が万全とは言えない。	○	対応が必要と思われる利用者がある場合、または家族から質問があった時など、職員がいつでも説明出来るようにしておく事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や、毎月請求書を送る時に文書を同封し、暮らしぶり等を報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に積極的に話しかけ、意見や不満などを聞くように努力している。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き改善に役立てている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を最小限に配慮しながらも2年に1度、職員の質の向上を考えて系列法人内で勤務移動を実施している。	○	認知症ケアの中で重要視される馴染みの関係を保つ為、職員サイドの都合ではなく、利用者サイドに立ち、人事異動に対して検討して欲しい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたって性別や年齢等を理由として採用から排除する事はない。社会参加や自己実現の権利も十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は利用者の人権を尊重する為に、日常的、またミーティング時に話題にして啓発に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に10回位、外部研修に職員を順次参加させ、その研修の伝達研修を行っている。管理者は職員の外部研修に熱意があり、研修関係の情報収集の努力がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、研修会や管理者会議等で交流している、また各々の職員が友人を通じ交流し、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人の利用者は家族と共に体験入所し、入居に至った。希望があれば何時でも体験できる仕組みが整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に過ごす事により喜怒哀楽を共にし、人生の先輩としての利用者から学んだり、支え合う関係が築けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者や家族に希望等を聴き、また日々接する中で気づきや意向を察知し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の利用者との関わりの中で、また家族と接する機会に聴いた希望や意見、業務日誌に詳細に記載された職員の気づきや意見等が、介護計画の作成に反映されている。また月に1回、夜勤者を除く全職員参加の勉強会での意見も介護計画の作成に反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、利用者や家族の了承を得ている。利用者の状態の変化や本人や、家族の要望に応じて関係者間で介護計画の見直しもを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、散歩、買い物等の希望に応じて、他の何名かの利用者にも声掛けて支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者とは話しあい、希望するそれぞれのかかりつけ医への受診、及び母体病院での医療を受けられるように支援している。年に2回レントゲン胸撮、3ヶ月毎の採血を実施している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医と話し合いを重ねながら、家族の意向に沿った支援をした経緯があるが、最終的には入院された。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳については、機会あるごとに話し合いをしており、十分に配慮されている。更に勉強会等で意識付けの強化を図るなど前向きに取り組まれている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを最大限優先してケアをしている。例えば、朝遅く起きる方の食事、食欲不振の方にはその方のペースに合わせた声掛けをして食事を提供している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に同じ食事を味わい、摂食している。咀嚼が十分に出来ない入居者には軟食、また一部介助による摂食等さりげなく行っている。入居者も食事の準備や配膳を積極的に行い、食事に関しての一連も楽しみとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後からの入浴としているが、午前に入浴を希望されたり、畑作業後の入浴を希望された時は、周囲の状況を見ながら入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道が得意な利用者に必要な掲示物を書いていたり、野菜作りや調理の野菜刻み、楽しみごとなどの支援を行っているが、全体的に生活歴についての把握が乏しい。	○	入居時や日々の生活の中での会話から生活歴や本人の趣味や得意なことなど、情報収集することが望まれる。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やホーム前の中央公園への散歩など、希望される時には他の入居者にも声掛けして外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せずにチャイムの音で対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、夜間を想定した避難誘導訓練を全職員参加で行っている。地域の消防団とも連携をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量は各自にあわせて準備し、主食、副食の摂食量をチェック、記録し、状況を把握している。また食事やおやつの際は十分に水分を摂取できるように見守っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは適度に広く、ソファや椅子、家具や時計、装飾品の配置も家庭的に工夫がなされている。トイレや洗面台は車椅子使用者がスムーズに使用することが出来る。ホームは落ち着いた環境で入居者の表情もおだやかであった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅時に使用していた馴染みの家具や装飾品を持ち込み、個性的で居心地が良く、また大きな窓があり、自然の採光で快適な居室環境である。</p>		